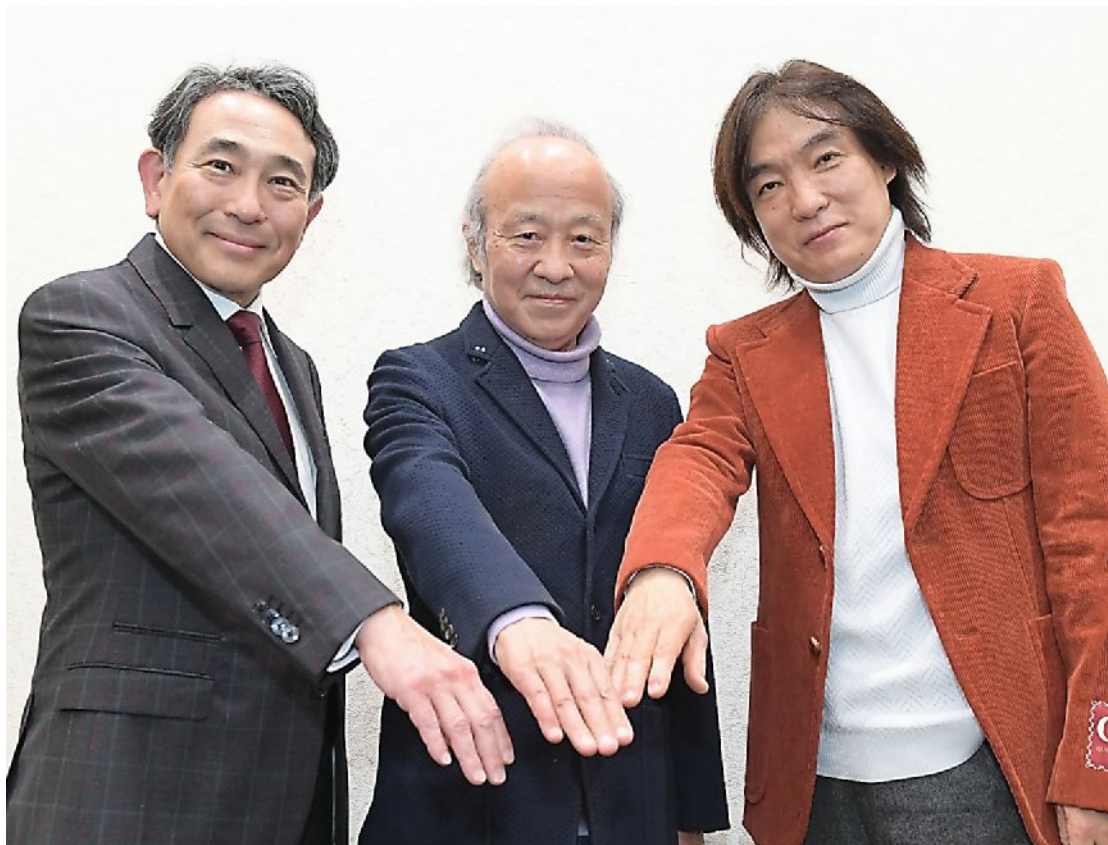


第61回 大阪国際フェスティバル2023 / festival hall Anniversary series

「4オケ」深化の春

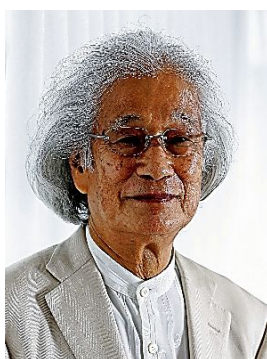


(左から) 山下一史、尾高忠明、飯森範親＝大阪府門真市、滝沢美穂子撮影

- ◆第1番 大阪フィルハーモニー交響楽団(指揮:尾高忠明)
- ◆第2番 関西フィルハーモニー管弦楽団(指揮:飯守泰次郎)
- ◆第3番 大阪交響楽団(指揮:山下一史)
- ◆第4番 日本センチュリー交響楽団(指揮:飯森範親)

関西フィルの明るさを発揮

2番 飯守泰次郎



ブラームスは、関西フィルと私が共に培ってきたレパートリーの中でも、特に力を注いだできた作曲家で、以前に録音した交響曲全集のCDもご好評いただいております。

約20年かけて交響曲第1番という記念碑的な作品をついに完成させたブラームスは、ベートーベンの後継者という重圧からようやく解放され、オーストリアの自然の中でのびのびと交響曲第2番を作曲しました。

後期ロマン派の立派な交響曲でありながら同時に、すべてが自然現象ともいえるべき、かけがえない魅力に溢れており、ブラームスが散歩している姿が浮かんでくるような音楽も出てきます。

関西フィルの明るく自由な氣質を存分に発揮できる交響曲第2番を、この特別なコンサートで演奏できることを、心から楽しみにしております。(寄稿)

■4オケの4大シンフォニー2023 ブラームス生誕190年

4月15日(土)午後2時▽大阪交響楽団(山下一史指揮)交響曲第3番、日本センチュリー交響楽団(飯森範親指揮)交響曲第4番、関西フィルハーモニー管弦楽団(飯守泰次郎指揮)交響曲第2番、大阪フィルハーモニー交響楽団(尾高忠明指揮)交響曲第1番▽S席1万円、A席7500円ほか。本日午前10時一般発売▽協賛:朝日放送グループホールディングス、京阪ホールディングス、サントリーホールディングス、竹中工務店

■提携公演「東京都交響楽団・大阪特別公演」

4月16日(日)午後2時▽指揮:大野和士▽マラー「交響曲第7番」▽S席6千円、A席4500円ほか。発売中

■東大寺開山良弁僧正1250年御遠忌記念 特別公演「東大寺 修二会の声明」

5月13日(土)午後2時▽出演:東大寺一山僧侶ほか▽初夜の悔過作法・大導師作法/走り/後夜の悔過作法・大導師作法・咒師作法/晨朝の悔過作法(予定)▽S席8500円、A席7500円ほか。

1月21日一般発売▽協賛:朝日放送グループホールディングス、関電工、ダイキン工業、大和ハウス工業、高砂熱学工業、竹中工務店、西原衛生工業所

■祝100周年!オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラ特別演奏会「カルミナ・ブラーナ」

9月2日(土)午後3時▽指揮:大植英次、大阪フィルハーモニー合唱団、岸和田少年少女合唱団、独唱:老田裕子、清水徹太郎、青山貴▽大栗裕「大阪俗謡による幻想曲」、カール・オルフ「カンタータ『カルミナ・ブラーナ』」吹奏楽編曲版ほか▽4月一般発売予定▽協賛:朝日放送グループホールディングス、京阪ホールディングス、竹中工務店

◇会場:フェスティバルホール

◇主催:朝日新聞文化財団、朝日新聞社、フェスティバルホールほか

◇チケットはフェスティバルホール(06・6231・2221、https://www.festivalhall.jp)ほか主要プレイガイドで販売

「第61回大阪国際フェスティバル」(朝日新聞文化財団、朝日新聞社、フェスティバルホールなど主催)が、来年4月に幕を開ける。おなじみとなった在阪「4オケ」の競演は、ブラームスでさらに深化。東大寺の「修二会」の声明や100周年を迎えるオオサカ・シオン・ウインド・オーケストラの特別な響きも味わえる。

(尾崎千裕)

ブラームスの4交響曲一挙に

大阪の春を彩る恒例の「4オケの4大シンフォニー」。9回目となる来年は、生誕190年のブラームス(1833〜97)の交響曲を1日で堪能できるプログラムだ。

11月24日に大阪府門真市であった4オケ合同の記者会見で、出席した3人の指揮者がそれぞれ思いを語った。

山下一史 なんと、ブラームス(の交響曲)を四つですよ。それが1日で聴ける、本当にすごいことです。世界的にみてもなかなか例がない。第3番は、演奏頻度の低い曲。一番大きな理由はおそらく、最後が静かに終わるからだ。

1番は非常に雄大な感じ。2番は喜びに満ちあふれて、4番は情熱的に。それに比べて3番は……。でもこう静かに終わるといのは、幸せというか充実したものがあってこそ。僕自身も大好きな曲です。演奏の充実感をオーケストラとも、お客様とも共有できたらと思っています。



尾高忠明 山下さんは、とても3番が向いていると思いますね。彼がさきほど言ったように、最後の「幸せな」「平和な」というのは、もうその通りですね。奇跡的な曲で、それを山下さんがどう振ってくださるのか、今からものすごく楽しみです。

指揮者 1番 尾高忠明×3番 山下一史×4番 飯森範親

第1番についていえば、僕のデビュー曲なんです。実は、僕にとつて一番大事な曲はブルックナー9番だった。うちのおやじ(尾高尚忠)が、(現在の)NHK交響楽団で最後に振ったのがブルックナー9番で、その時の話を母から聞いていたので、デビューはこの曲と決めてました。

でも残念ながら、その頃のオーケストラマネジャーで、23歳の若造にブルックナーの9番を振らせてくれる人は誰もいません。それで、「これやれ!」と言われたのがブラームスの1番。ところが、僕は1番もとても好きな曲だった。東京フィルのデビューも、N響のデビューも全部ブラームスの1番でした。

4年ほど前に、僕が前立腺のがんでお休みしたちょうどその頃、大フィルはブラームス・チクルス(全曲演奏)をやっていました。がんの放射線治療で休み直前の演奏会が、交響曲第1番だったんですね。

自分の体調も少し心配だったけど、オーケストラが乗りまくってくれて、終わった時にものすごい拍手をいただいた。その拍手を整理した後、「実は僕は前立腺のがんで、3カ月ほどお休みします」という報告をして。そうしたら、いや、びっくりしましたね。1人の女性のお客様が「頑張っている!」って言ったんですね。これは

ね、東京ではありえない。そんな思い出の1番です。



飯森範親 今回の第4番は、数年前、音楽監督をさせていただいたドイツのビュルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団の公演で演奏しました。ドイツのオーケストラでブラームスをやるとね、いろいろとカルチャーショックを受けるわけなんです。

特にバーデンビュルテンベルク州というのは、(そこで暮らした)ブラームスと切っても切れない州なんです。そのオーケストラによるブラームスだったので、特に2楽章の最後、コントラバスの響き。ああこれがドイツのオーケストラだよな、って感じたことを昨日のように覚えてます。

センチュリーの皆さんも、ハイドン(チクルス)で徹底的に今鍛え上げられていまして、どんな作品でも本当に素晴らしいディテールまで表現してくださる。その彼らと、こんな緻密なブラームスを演奏できるのは本当にうれしいです。

ところで皆さん、ブラームスの1番、2番、3番、4番で調性が何かに関係あるって知ってます?

これ、モーツアルトの41番「ジュピター」の(終楽章の)主題と一緒になんです。音楽家には有名なことですが。だから、この神がかった4曲をすべて聴けるというのは、またとないチャンス。4曲まとめて聴けることに意義があると思うので、本当に素敵なお日になると思います。

東大寺・修二会の声明 大阪で



東大寺ゆかりの人たちの名が記された過去帳を読みあげる練行衆＝2020年3月、奈良市の東大寺

「お水取り」の名で知られ、奈良・東大寺の二月堂で毎年2〜3月にある「修二会」の声明が、フェスティバルホールで特別

別公演される。初代別当(住職)の良弁僧正の1250年御遠忌を記念する公演で、修二会の声明が東大寺以外で披露されるのは14年ぶりとなる。

修二会は、人々が知らず知らずのうちに犯した罪を、練行衆と呼ばれる11人の僧侶が人々に代わって悔い改める悔過法要。大仏開眼と同じ752年から途絶えることなく続いている。

声明は節をつけたお経のこと。特別公演では、練行衆以外には立ち入れない二月堂内陣の様子をステージ上に再現する。

「オオサカ・シオン」伝統の音色

2023年に誕生100年を迎える、日本で最も古い交響吹奏楽団「オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラ」。記念の特別演奏会で、大阪フィルハーモニー交響楽団桂冠指揮者の大植英次とタッグを組み、伝統の音色を響かせる。



オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラ ©飯島隆

1923(大正12)年、元陸軍第四師団軍隊の有志らが「大阪市音楽隊」を結成。楽団名がたびたび変わっても、全国ファンに「シオン」の愛称で親しまれてきた。

特別演奏会では、大阪フィルハーモニー合唱団も友情出演。カール・オルフ作曲の大曲、カンタータ「カルミナ・ブラーナ」の吹奏楽編曲版を演奏す